



青き楓

島高だより 平成24年12月号

(通巻第81号)
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

校長随想 湧水抄

「スマイル」でいこう!

校長 北浦剛資



島高生の「S」は「Smile」のS。新しい年は、さらに「前向き」に進んでほしい。

■捨てるべきは、「甘え」や「我がまま」

今年も残すところ僅かとなった。大掃除のおかげで、校内環境も生徒・職員の気持ちも新年を迎えるにふさわしい清新な空気となった。ところで皆さんは、それぞれ将来の夢を抱いていると思うが、その夢を実現するための心構えはできているだろうか。夢が夢のまま終わるのならば、高校生活の意味がない。新たな年を迎えるにあたり、いま一度日々の生活について自問自答してみしてほしい。大掃除の極意は無駄なものを思い切って捨てることと言うが、皆さんの心の中にもう捨ててよいものはないだろうか。甘えや我がまま、独りよがりな考え方は自らの成長を阻害する要因であり、そのために周りが見えなくなり、客観的な判断を鈍らせることになる。越年は、自分のことしか見えなかった「過去の自分を脱ぎ捨てる」よい機会だと思う。

■身につけるべきは、「自立」と「責任」

人間のキャパシティは限られているので、心の中に邪魔なものがあるうちは新しいものが入ってきにくいのだと思う。他者依存の甘えた体質を脱却し、人のために何が出来るかを考えることによって自立心が生まれ、責任感が備わり、そのことが夢の実現につながると信じている。この世の中、思い通りにいかないことの方がむしろ多く、はがゆい思いや悔しい気持ちになることも多いと思う。またうまくいかないとき人を恨んだり、ヤケを起こして周りに当たり散らしたことがあったかもしれない。友人や家族のこと、部活動や学習に関すること、男女交際や自分の容姿のことなど、悩みの種は尽きないが、小さな悩みでも積み重なると重大な事態を引き起こす。それを解決するには発想を転換すること、つまり「受け身」から「攻め」に転じること。まさに「スマイル」は、能動的で前向きな攻めの生き方を象徴する強力な武器ではないのか。

謹賀新年



1月の主な行事予定



1日(火) 元日	18日(金) 大学入試センター試験出陣式
4日(金) 西九州新春バレーボール大会 (本校会場～6日) センタープレテスト(3年～5日)	19日(土) 大学入試センター試験(~20日) 県新人戦 (サッカー・ラグビー・バレー・バスケット)
6日(日) 冬季補習(全学年～7日)	21日(月) センター試験自己採点(3年)
8日(火) 始業式 校内実力(1・2年～9日)	22日(火) 特別編成授業開始(3年生) 地学講座(理数科1年)
9日(水) 学習環境調査(1・2年)	26日(土) 進研記述実力(1・2年) 出願校面談(3年～27日)
12日(土) 土曜講座(全学年) 2年生中地区学習交流会(~13日)	27日(日) 進研記述実力(2年)
14日(月) 成人の日	29日(火) まゆやまロード健脚大会 PTA炊きだし

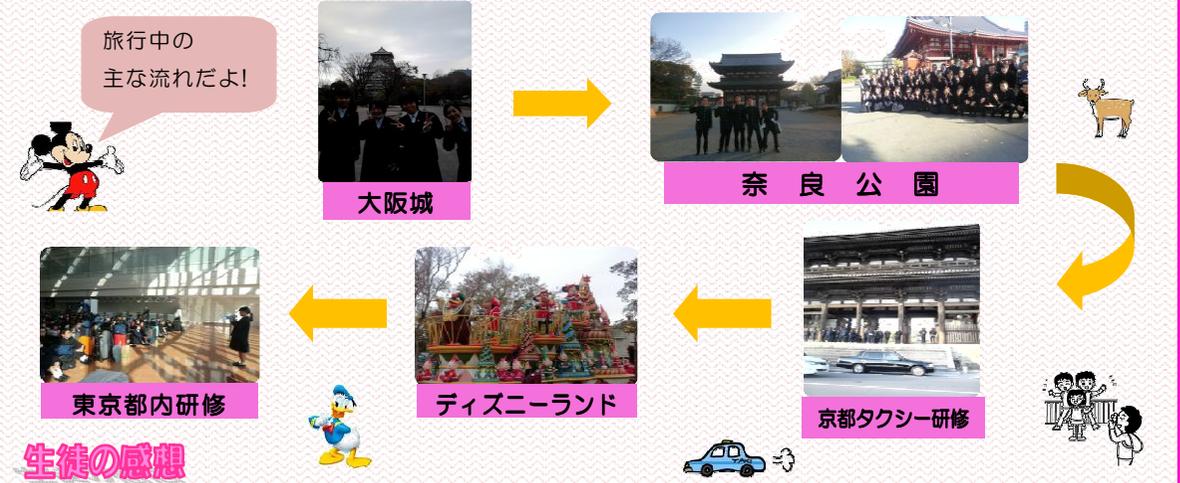


修学旅行

2学年主任 島田 朋成

天候に恵まれ、途中での病気や事故もなく、予定通りの研修ができました。特に、都内事業所訪問(35カ所)及び筑波研究施設訪問では、事前学習を含め生徒たちの積極的な取り組みにより、今後の進路選択に繋がる学習を行うことができました。改めて振り返ると研修内容が多く、やや過密気味の修学旅行でしたが、生徒たちは旺盛な好奇心と素直に感動する豊かな感性をもって、見聞を大いに広め、貴重な経験を積んでくれたと思います。保護者のみなさま、関わってくださったみなさま方に感謝申し上げます。

修学旅行も無事終了し、66回生もいよいよ進路実現に向けて学業充実の時を迎えます。ご家庭におかれましても、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



生徒の感想

- 京都のタクシー研修では三十三間堂と清水寺を見学した。運転手さんが専門ガイドだったので、奥の深い話をたくさん聞くことができ、感動した。「寺や神社は人が少ない日に来て自分を見つめ直す場所であり、何を感じるかが大切だ」という言葉が心に染み込んだ。
- 東京事業所訪問では世界を股にかける大企業に訪問したことで自分の考え方が変わった。今までは目の前のことで精一杯だったが、視野を広くすることでいろいろなアイデアが浮かぶことを実感した。「あやふやなままでは進めない。だからこそ苦しんで自分の道を切り開いていかなければ」と思った。
- 筑波に行き、世界をリードする研究施設を見学したが、その規模の大きさに驚いた。このような施設を積極的に作って謎を解き明かそうとする日本は素晴らしいと思った。
- 島高の修学旅行は盛りだくさんだった。九州、大阪、奈良、京都といろいろな地で学んだ。東京でも事業所訪問と都内自主研修、TDLと忘れられない思い出ができた。関わってくださったすべての方々感謝したい。

美術部

平成24年度長崎県高等学校総合文化祭美術展

優秀賞	1年	中島 祐子	優良賞	1年	藤田 明里
優良賞	3年	石田 桃華	優良賞	1年	林田 麻里
優良賞	2年	関 よしの			

「理数科」地学セミナー

地学講座

理科主任 松本 優一

本校の理数科1学年ではSPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)というものを実施しています。

今年は「島原半島の復興と防災」というテーマを掲げ、また来年度の「2013 長崎しおかぜ総文祭」「巡検ガイド」育成を目指して、雲仙岳災害記念館の寺井邦久先生に講師をお願いし、島原半島ジオパークについて学習を進めています。

月に1度、このことについて寺井先生に講義をしていただいておりますが、今月は実地実習ということで島原半島地学巡検を行いました。その様子を紹介したいと思います。

島原半島地学巡検

12月11日(火)に理数科1年生40人が島原半島南部のジオサイト巡検を行いました。巡検とは、バスに乗って移動しながら、実際に現場を見て、岩石採集、地質・地層(ジオサイト)の観察を行うことです。

今年は垂木台地、旧大野木場小学校、布津・深江断層、龍石海岸、原城跡、早崎海岸、津波見海岸を見学しました。現場では地層や断層、普賢岳噴火の災害の跡を目の前にし、その成り立ちや意味について、寺井先生から専門的な説明をしていただきました。

また、さまざまな年代におけるさまざまな種類の岩石を拾い、各自で火山岩の標本づくりを行いました。平成新山の麓である垂木台地では20年前に作られたデイサイトを、早崎海岸では430万年前の玄武岩を、津波見海岸では安山岩を採集することができました。さらに、バス車内から断層・導流堤などを眺め、普段見過ごしている風景についてわかりやすく紹介していただきました。

何気なく生活している私たちの島原半島ですが、地学的にはたいへん多くの特徴を持っており、それに触れた生徒たちは感想の中で「火山活動の恐ろしさと思恵を感じた」「島原半島のことをもっと知りたいと思った」と故郷に対する思いを強くしたようでした。

来年島原で開催される「2013 長崎しおかぜ総文祭」では、島原半島ジオパークのことを全国の人たちに向けて紹介していくこととなりますが、その礎が築けた体験になりました。



安山岩 採集



垂木台地の様子

歳末助け合い募金活動

生徒会指導部主任 谷口 英次

12月10日から14日まで、歳末たすけあい募金活動を行いました。今年も校内での募金に加え、街頭募金活動を12月11日、12日の両日、エレナ島原店、ダイエー島原店、ウィルビーの3カ所にて実施しました。生徒達は、最初は恥ずかしがって声になかなか出ませんでした。募金をして下さる市民の方々に励まされ、しだいに大きな声が出せるようになりました。今年も厳しい経済状況の中、たくさんの募金をいただきました。市民の皆様から感謝申し上げます。募金は長崎新聞社を通じて共同募金会に届けました。

校内募金 118,524円 + 街頭募金 172,687円 = 計 291,211円



沢山の募金
ありがとうございました！



3年生激励会

3学年主任 吉田 英雄

3年生の進路実現を祈念し、チーム島高として3年生を激励することを目的として、今年も3年生激励会を12月21日(金)の終了式後に実施しました。65回生の3年間を振り返るビデオが流れたあと、校長先生の激励のことばがあり、PTAからは激励のことばと千羽鶴・しおりの贈呈がありました。続いて1・2年生から3年生の各クラスへ、クラス単位で寄せ書きをした色紙の贈呈があり、常任委員長が代表して激励のことばを送りました。3年生からは、各クラスの代表者が決意を述べ、最後は応援団の指揮によるエールと校歌斉唱で締めくくりました。3年生、1・2年生、職員、保護者の気持ちが一つに感じられるいい激励会でした。



PTAから菜と千羽鶴の贈呈



応援団からのエール



3年生の決意表明



全員で校歌斉唱

異世代交流体験学習

1年4組担任 松本 優一

今年度の異世代交流体験は、1年4組37名が福祉施設「ありあけ荘」でお年寄りと交流し、1年6組40名が「清華保育園」で園児と触れ合いました。

生徒の感想

- ありあけ荘**
 - 最後、「上を向いて歩こう」を歌ったとき、楽しげにカスタネットをたたくおじいちゃんを見て、とても心が温くなりました。お別れのとき「ありがとうね」と言って握手してくれたときのおじいちゃん笑顔と手のぬくもりは忘れられません。
 - お別れのときに笑顔で「今日は本当にありがとう」といわれた時、自分も自然と笑顔になっていました。今回の体験を通じて家族や友達、さまざまな人に対する接し方を見直して改善していかなければいけないと思いました。
- 清華保育園**
 - 保育士という仕事は「子どもと遊べて楽しそう」くらいにしか思っていませんでしたが、実際には少しの時間子どもと遊んだだけでも大変でした。危ないことをしていないか気にかけて接しなければならず、その中で何気ない言葉かけにもちゃんと意味があるということを知りました。
 - 園児と接して、話す時の視線の高さ、言葉の使い方やスピードなど相手のことを思いやることの大切さ、そして育て、育てられる関係の意味などについて考えることができました。